



あさひ

横浜市立旭小学校 SINCE 1901

令和6年2月
学校だより



小学校への接続、小学校からの接続を考える

校長 益子 照正

今月は、小学校教育の前後をつなぐ、幼児教育施設と中学校との連携を充実するための取組をそれぞれ行いましたので、ご報告とともに、その価値について考えてみたいと思います。

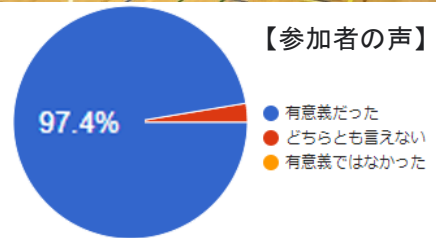
1月12日、旭小学校を会場に、近隣幼児教育施設の方々にお声をかけ、「架け橋期の教育充実に向けての座談会」を開催しました。これまでの幼保小の接続には、なかなか解決できていない課題がありました。それは、翌年に小学校への入学を控えた幼児教育施設の年長児は、園では自覚や責任をもって自己決定する活動を保障されているにもかかわらず、小学校に入学すると同時に、しっかり座席につく、一斉に行動するなど、既存文化の違いに戸惑い、その結果、存分に自己実現ができていないのではないか、という懸念への対応です。そこで、幼児教育施設ではぐまれてきた資質・能力を、小学校教育を通じてさらに伸ばしていくために、両者の教育についての理解を深めることを主目的として実現したものがこの座談会です。その目標達成のために、両者の立場の違いを越えて幼保小で連携・協働できるように、気軽に声を掛け合える関係性をつくるのが優先と考えての当日でした。



会場の体育館には、幼児教育施設15園、小学校6校の関係者およそ70名が集い、お互いの教育理念や実際の活動、園児や児童の様子を情報交換し、とても充実した座談会になりました。旭小学校では、今後も幼児教育施設と連携した教育活動の充実を図っていきます。

25日には、寺尾中学校ブロック4校（寺尾中、東台小、上寺尾小、旭小）での交流として、中学校の授業参観および協議会を開催しました。小学校から送り出した中学生の様子を見つめることは、6年間の初等教育での学びをどのように発揮しているか、生きる力として活用できているかの姿から、小学校での取組がどうだったのかを省察するための大きな材料です。ブロック校4校の中でも、旭小学校区全体が寺尾中学校区に内包していることで、より強い連携が求められていると考えています。小中合同の学校運営協議会を中心に、より顔の見える関係を充実させ、今まで以上に9年間の教育を充実させていきます。

前後の接続機関との連携を図るうえで、保護者の皆さんを含む地域の声はとても貴重です。今後とも、いろいろなご意見を頂戴できれば幸いです。



Q 今日の内容はあなたにとって有意義な時間となりましたか？



アンケート結果

★大谷翔平選手からの寄贈グラブが旭小に到着!★

1月26日、大谷翔平選手からの寄贈グラブが本校にも届きました。「野球しようぜ」とサインされたカードに、右投げ用のグラブ2つと左投げ用のグラブが1つ、計3つの大きなプレゼントです。



あさひっ子に、「みんなが仲よく使うための」アイデアを募集していたところ、4、5、6年生からアイデアが寄せられました。そこで、それぞれのよさを生かした方法で全あさひっ子に使ってもらう計画です。次の世代に夢を与え、勇気づけるシンボルにしたいという大谷選手のグラブに込めた思いが、あさひっ子の心に響いてくれることを願っています。

◆6年生がGPSテクノロジーを

活用した学習に挑戦!◆

衛星による測位システム(GPS)を活用することで、運動量や速度、加速度を可視化できるテクノロジーを活用した体育科学習に、6年生が取り組んでいます。このテクノロジーは、スポーツ界でも取り入れられてきており、昨年開催されたラグビーワールドカップで注目されました。そこに技術提携している、慶應義塾大学大学院・システムデザイン/マネジメント研究科と一般社団法人慶應ラグビー倶楽部が運営する「慶應キッズパフォーマンスアカデミー」との協力で実現したものです。

2月下旬に実施される計測には、県・市教育委員会のほか、報道関係者が来校する予定です。

